

特集

- ・ ケント紙、尾瀬の木道エコペーパーキャンペーン終了
- ・ たかさき能(薪能)

ケント紙・尾瀬の木道紙キャンペーン終了

街を吹きぬける風もすっかり秋のものとなり、紅葉も段々と山から下りてきています。今月末にはもう年末となり、あわただしい気分となるのでしょうか。月日の経つのは本当に早いものです。

気温も低くなってきたので運動してもあまり汗だくになったりせず、体を動かすのには良い気候です。しかし普段運動不足なのに急に運動すると、各所が痛んだり、ひどいときには心臓麻痺、なんてことにもなりかねません(余談ですが、ジョギングの考案者はジョギングの最中に心臓麻痺で死亡しました)。

そんなときに役立つのがAEDです。大きい公園や施設などでは良く見受けられるようになったAED。最近とあるお客様のところにも設置されていたので、調べてみました。

AEDとは、「自動体外式除細動器」のことで、簡単に言えば、一般の人でも使うことができる電気ショック器のことです。

心臓の病気などで倒れた方のほとんどが、心臓が細かく震える心室細動という症状で、血液を身体に送り出すことできない状況になることが多いようです。

心室細動を起こして、倒れてしまった方への救命措置は時間との勝負です。救急車が到着するまでの時間は、平均して約6分ですが、命の危機の前でその6分を待つ余裕は全くありません。救急隊員や医師が到着するまでの間に救命措置を行っておくことは、救命率に大きく影響するのです。

AEDの使用方法ですが、基本的には起動して、音声案内に従えば誰にでも取り扱うことができます。電気ショックが必要かどうかはAEDが判断してくれるので、医学的な判断は必要

ありません。

AEDを使用するとき、傷病者の衣服を取り除き裸にする必要があります。当然、救命を第一優先に行動することはもちろんなのですが、周りに多数の人がいる場合は、協力して人垣になったり、衣服などでカーテンを作ったりして、傷病者のプライバシーを守ってあげる事も必要になると思います。

使用後も、AEDは傷病者のデータを採り続け、救急隊員や医師への引渡し後の対応をサポートする役割があります。電極パッドをはがしたり、AEDの電源を切ってしまうなどは絶対にしないでください。

AEDも起動まで多少の時間を要します。そのため、心臓マッサージや、人工呼吸などのサポートが必要になります。また、AED使用後も音声案内に従い、心臓マッサージ・人工呼吸を再開し、救急車を待ちましょう。

愛知万博の時も、AEDにより命を救われた方がいます。できることなら講習を受けて、いざという時のために心に備えをしておくことが大切になると思います。

3ヶ月にわたり行ってきましたケント紙・尾瀬の木道エコペーパーキャンペーンも終了いたしました。ご協力ありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

尾瀬の木道エコペーパー、知名度はまだまだですが、時代にマッチした良い商品だと思います。キャンペーンは終了しましたが、エコペーパーは勿論好評発売中。まずは弊社営業までお問い合わせいただき、新たなお仕事にお使いいただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

(K)

スギウラ株式会社
営業部 営業一課
〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業一課
027-361-5734

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

たかさき能(薪能)



皆さんは「能」をご覧になったことがあるでしょうか。ご存じない方も多いかもしれませんが、高崎でも白衣観音建立50年を機に1986年に公演が始められ、今年で実に24回目を迎えます。以前は観音山(屋外)で行われておりましたが、天候への心配などもあり、今は高崎市内の群馬音楽センターで毎年秋に開かれており、今年は11月14日(土曜日)に上演されます。

能と聞くと、どうも敷居が高い感じがして見に行けない、そういう方もいます。「能は分からないから関心がない」という人も多いですが、しかし美しいものを求める心は持っているはず。と、作家の白洲正子も言っておりました。しかし能は謡(うたい)、囃(はやし)、舞からなる、いわば和風のオペラであり、誰でも楽しめるものです。

導入部である囃方の「おしらべ」から始まり、奥の幕が開き(能舞台の前には幕はありません。舞台奥の「鏡の間」につながる幕です)太鼓、鼓、笛が入り、舞台向かって右の「切戸口」より地謡方(じうたいかた)が入り、後見人が舞台のセットを持ち出し準備します。これらが全て観客の前で行われます。この間シテ(主役)は鏡の間で能面を付け、役に入り込みます。それはとりもなおさず人ならざるものへの変貌・変身であり、鏡の間から舞台へと続く「橋掛(はしがかり)」は、この世とあの世を結ぶ、まさに架け橋なのです。

もともと能は猿学能という神事芸能から発展したもので、「舞う」という言葉自体、「まふ」+「まはる」「まひまはる(まいまわる)」すなわち「神に近づく」という意味です。かの織田信長も戦の前には「人生わずか五十年~」から始まる幸若舞(こうわかまい)を舞い、戦いの前に緊張感を高めました。この舞を信長が特に愛したことは、つとに有名です。

そういった出自でありますので、あの独特の幽玄なる雰囲気、この世ならざる世界観というものは醸成されてきました。能が成立した室町時代は人間の死が今よりずっと身近なものであり、それゆえ死者の視点から物語が語られる「夢幻能」が、多く残っています。

たかさき能(薪能)で今年上演される「土蜘蛛」は生者視点の「現在能」ですが、舞台を支配する雰囲気は、やはりほかでは味わえないものです。是非一度ご覧になって頂き、日本にこういった素晴らしいものがあるということを確認して頂ければ幸いです。

たかさき能(薪能)HP
<http://www.takasaki-nou.jp/index.html>



(A)

お気付きの点や質問、疑問などありましたら、ご遠慮なく営業または、下記までお問合せください。

お問合せ
メールアドレス
sg-arai-yoshio
@kamisugiura.co.jp

